

年 度 評 価 シ ー ト （令和6年度）

課名 緑地政策課

施設の名称 あさはた緑地交流広場	指定管理者名 一般社団法人 グリーンパークあさはた
1 履行状況 (1) 管理業務におけるの数値目標 令和6年度のあさはた緑地交流広場の利用者満足度調査 90%以上 令和6年度のあさはた緑地交流広場の利用者満足度調査結果 96.7% (2) 人員配置状況 常に3名以上の職員が常駐し、定期的な接遇研修、危険予知研修が実施され、適切な人員体制が構築されていることを確認した。 (3) 運営・管理業務 利用者への対応、トラブル対応、施設の維持管理等について、適切に履行されていることを確認した。施設の維持管理においては、1日2回の園内巡回を行い、利用者へのヒアリングを行いつつ、専門的知見から園内の生態系の保全に関するアドバイスを受けるなどし、利用者の利便性と自然環境との共生に努めた。 (4) 各種事業・イベント 指定事業、自主事業、各種イベント等について、20種類程度のイベントが適切に履行されていることを確認した。初の試みとして、あさはた緑地内のため池の水を抜き、生きもの調査と外来種駆除、池の掃除を目的としたイベントを行った。小学生以上を対象に30名を募集すると15分で定員に達し、当日も100名程度が見学した。捕まえた生きものは「在来生物」「外来生物」「条件付き特定外来生物」「特定外来生物」に分類し、分類の理由や環境保全の取組を学ぶ機会を提供した。 【検証・分析等】 指定管理者制度による管理を開始してから4年目になるが、運営、管理業務においては適切に実施されている。 施設の運営業務においては、常に3名以上の職員が常駐し、定期的な接遇研修の実施や毎月1回の定例ミーティング、「KY（危険予知）」研修等を実施し、利用者の満足度、安全の確保に努めた。 施設の管理業務においては、「ミズアオイ」や「カヤネズミ」など、種の存続が危ぶまれている動植物の生態系に配慮し、「選択的除草」による、保全エリアを設けた。 情報発信業務においては、あさはた緑地の生物多様性や管理の工夫、連携などが評価され、日本ビオトープ協会が主催する第16回ビオトープ顕彰において大賞を受賞した。また、平常時の遊水地の土地活用や貯水後の復旧作業が参考事例になるとフィリピンから視察が来園した。国内外の問い合わせが増加した。	

指定管理者による安定的な運営管理業務が、「あさはた緑地交流広場」の、対外的な評価と認知度の向上に繋がっていると考えられる。

【確認結果】

○：協定書の内容が適正に履行されている

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

- （１） 観察小屋から園路に入った所で杖を突いた女性が滑ったため、何らかの対策を講じてほしい。
→リースで高圧洗浄機を借りて該当箇所を清掃。以後、年１回程度原っぱ内の園路の清掃を検討。
- （２） 焼き芋大会に参加したが、スタッフの対応がよく、待ち時間も苦痛にならなかった。他の参加者からきつい言い方で意見を言われていたのを目撃し、心配になった。若い人はターゲットになりやすいので、年上の人や男性が対応した方がよい。
→当日先着制を改め、年間参加に仕組みを変更。イベントに関わるスタッフの体制はシフト編成で可能な限り若手女性だけにならないように配慮。

【検証・分析】

利用者からの意見・要望に対しては概ね適切な対応がとられている。また、日常的な来園者に対しての声掛けや、自治会連合会、各種団体を交えた定例会議を行っており、意見、要望の聞き取りを積極的に行っている点も評価できる。今後も、管理や広報のノウハウの積み上げにより、さらなる利用者サービスの向上が期待できる。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

【利用者満足度調査】

来園者を対象（全４回、計１２０人）に、あさはた緑地交流広場において

- ① 園内は安全で快適だと思うか？
- ② 園内の清掃は行き届いているか？
- ③ 再度利用したいか（総合満足度の指標として適用）？
- ④ 大雨時、一時的な貯水機能があることを知っているか？
- ⑤ 自然と触れ合う活動を行っていることを知っているか？

の質問項目を設け、Ａ（１００％）、Ｂ（７５％）、Ｃ（５０％）、Ｄ（２５％）、Ｅ（０％）の５段階評価でアンケートを行った。

【指定管理者調査結果】

回答者数：１２０件

- ① 園内は安全で快適か : 96.19%（前年度95.91%）

- ② 園内の清掃は行き届いているか : 95.59% (前年度95.44%)
- ③ あさはた緑地を再度利用したいか : 98.54% (前年度98.74%)
- ④ 大雨時、一時的な貯水機能があることを知っているか : 68.54%
- ⑤ 自然と触れ合う活動を行っていることを知っているか : 65.00%

【「満足」「やや満足」回答数の集計】

回答者数 : 120件、「満足」「やや満足」と回答した人数 : 117人

総合満足度 (質問の集計値の平均値) : 96.77% (前年度96.70%)

【検証・分析等】

指定管理者における満足度調査において、昨年度と同様、総合満足度95%以上に相当する回答を得ており、利用者のニーズに沿った管理運営が継続的に実施されていると確認した。

一方で今期から加わった認知度調査は、実施した時期によって結果に大きなブレが生じ、70%を下回った。他の質問の回答傾向との関連性は見られず、認知している層とそうでない層の差を縮めることが課題となる。

定期のアンケート以外にもイベント毎に参加者へアンケートを実施し、他にどのようなイベントの開催を望むかなどの意見調査を行い、可能なものをイベントや運営に反映させた。今後も、さらなる市民 (利用者) の満足度向上のため多様なイベントの実施を期待したい。

【確認結果】

△ : あさはた緑地自体への満足度調査の結果は概ね良好であるが、遊水地に対する認知度は低く、公園の役割として重要な内容であるため、取り組みの検討が必要。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況は、適正に執行されている。

【検証・分析等】

遺失物法に基づき所有権が失効したおもちゃの貸し出し、データ共有サービスの利用、外灯の季節に応じた点灯時間のこまめな調整、「あさはた緑地サポーター制度」によるボランティア有志を交えた維持管理、イベント運営により、経費の削減に努めた。

指定管理料の増額に加え、飲料自販機の手数料収入が加算されたことで収入が増えたが、物価と人件費の高騰は吸収しきれず、運営全体としては支出超過がみられる。前年度と比較すると支出額は抑えられている。

【確認結果】

○ : 安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総括的な評価 (課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など)

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

令和6年度の総括的な評価としては、事業計画に基づき業務を的確に実施している。

地元自治会や麻機遊水地保全活用推進協議会所属の各団体とも随時意見交換を行い、良好な関係を築いている。

令和6年度においては「あさはた緑地サポーター制度」の運用が定着してきた。これは、公園利用者から多数寄せられていた「ボランティアとして可能な範囲であさはた緑地交流広場の管理運営に携わりたい」という要望について、令和4年度のうちに構想が確立され、令和5年度より本格的に運用が始まったボランティア制度である。「あさはた緑地サポーター制度」登録者は、生態調査、園内の維持管理など作業分野を選択し、協力できる範囲内で活動する。令和5年度には60名だった登録者数は、農業作業活動の多さをきっかけに95名に増加した。

「あさはた緑地サポーター制度」は、麻機遊水地グランドデザイン」に基づいた独自の提案であり、地域住民をはじめとした方々の「あさはた緑地交流広場」維持運営への参画体制を整えた点が高く評価できる。

制度を見直すために大学のゼミに参加し、報告をもとに活動を一新する予定とのことで多様な経験に基づく独自の強み、ノウハウを生かした施設運営を期待したい。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。